

Asia Indicators

発表日: 2023 年 9 月 29 日 (金)

台湾の生産活動に幅広く底打ちの動きがうかがえる (Asia Weekly(9/22~9/29))

~オーストラリアの消費動向は全体的に頭打ちの様相をみせる~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/22(金)	(台湾) 8 月失業率(季調済)	3.42%	--	3.43%
9/23(土)	(台湾) 8 月鉱工業生産(前年比)	▲10.53%	--	▲15.46%
9/25(月)	(シンガポール) 8 月消費者物価(前年比)	+4.0%	+4.0%	+4.1%
9/26(火)	(シンガポール) 8 月鉱工業生産(前年比)	▲12.1%	▲3.1%	▲1.1%
	(タイ) 8 月輸出(前年比)	+2.6%	▲4.0%	▲6.2%
	8 月輸入(前年比)	▲12.8%	▲10.0%	▲11.0%
	(香港) 8 月輸出(前年比)	▲3.7%	--	▲9.1%
	8 月輸入(前年比)	▲0.3%	--	▲7.9%
9/27(水)	(オーストラリア) 8 月消費者物価(前年比)	+5.2%	+5.2%	+4.9%
	(タイ) 金融政策委員会(政策金利)	2.50%	2.25%	2.25%
9/28(木)	(オーストラリア) 8 月小売売上高(前月比・季調済)	+0.2%	+0.3%	+0.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]~雇用底入れの動きに一服感が出るも、生産を巡る状況は幅広い分野で改善の動きが広がっている~

22 日に発表された 8 月の失業率 (季調済) は 3.42% となり、前月 (3.43%) から 0.01pt 改善している。失業者数は前月比 ▲0.2 万人と前月 (同 ▲0.2 万人) から 5 ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。種類別でも、既卒者のみならず新卒者においても減少の動きが続いている一方、非自発的失業を中心に減少の動きが続くなど質的にも改善の動きが進んでいる様子がうかがえる。一方の雇用者数は前月比 ▲0.3 万人と前月 (同 +1.1 万人) から 1 年 2 ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向が続くなど底入れが続く展開は変わらない。業種別では、観光関連や運輸関連、金融関連をはじめとするサービス業で雇用の底入れの動きが続いているほか、建設業にも堅調な動きがみられる一方、製造業や鉱業部門などで雇用改善の動きに足踏み感が出るなど、跛行色が鮮明になる動きがみられる。なお、雇用環境に対する不透明感がくすぶるなかで労働力人口は前月比 ▲0.5 万人と前月 (同 +1.0 万人) から丸 1 年ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ており、この動きを反映して労働参加率は 59.21% と前月 (59.23%) から ▲0.02pt 低下するなど、雇用改善の動きに一服感が出ている様子もうかがえる。

23 日に発表された 8 月の鉱工業生産は前年同月比 ▲10.53% と 14 ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月 (同 ▲15.46%) からマイナス幅は縮小している。前月比も +3.20% と前月 (同

+1.71%) から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きが進んでいる。製造業を中心に生産拡大の動きが確認されており、なかでも主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、医薬品をはじめとする化学製品関連のみならず、縫製品や食料品といった軽工業関連の生産にも底打ちの動きが確認されるなど、幅広い分野で生産を取り巻く環境が改善している様子がうかがえる。

図1 TW 雇用環境の推移

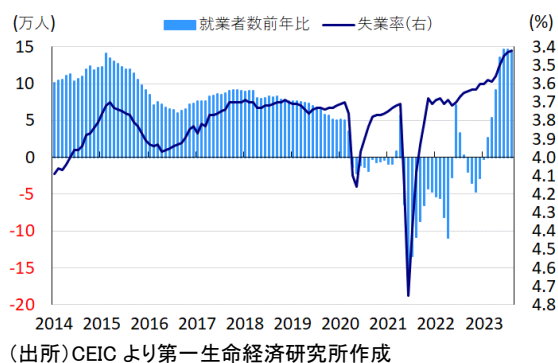
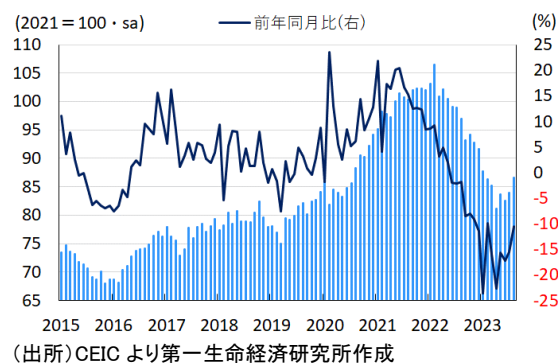


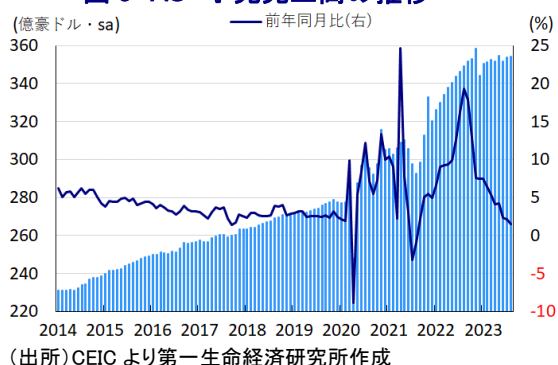
図2 TW 鉱工業生産の推移



[オーストラリア]～サッカー女子W杯関連の消費に堅調さも、全体的に家計消費は頭打ちの様相を強める～

28日に発表された8月の小売売上高(季調済)は前月比+0.2%となり、前月(同+0.5%)からペースは鈍化するも2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。ただし、前年同月比ベースの伸びは+1.5%と前月(同+2.1%)から一段と伸びが鈍化しており、昨年末以降は頭打ちの様相を強めている様子がうかがえる。分野別では、サッカー女子ワールドカップ(W杯)の開催に伴い外食関連の売り上げは好調に推移しているほか、百貨店売上や衣類・宝飾品関連の売り上げにも堅調な動きがみられる。一方、食料品や家庭用品などの売り上げに一段と下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、物価高と金利高の共存状態が長期化するなかで財布の紐が固くなっている様子がうかがえる。

図3 AU 小売売上高の推移



[シンガポール]～生活必需品でインフレ再燃の動きの一方、世界経済の減速懸念が生産活動の足かせに～

25日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+4.0%となり、前月(同+4.1%)からわずかに伸びが鈍化している。ただし、前月比は+0.88%と前月(同▲0.24%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、主要産油国による自主減産を受けた国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格の上昇

圧力が強まる動きがみられるほか、穀物など輸出の禁止及び停止措置の広がりを反映した穀物価格の上昇を受けて食料品価格も上昇傾向を強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.4%と前月（同+3.8%）から一段と鈍化しており、16ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.07%と前月（同+0.20%）から上昇ペースが鈍化しており、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストに押し上げ圧力が掛かるにも拘らず財価格は上値が抑えられており、景気に対する不透明感が物価の重石となっている様子がうかがえる。

26日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比▲12.1%と11ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲1.1%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲10.51%と前月（同+3.68%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。同国の生産動向を巡っては、バイオ・医薬品関連の生産が月ごとに大きく上下に振れる上、生産全体の行方を左右する傾向があるが、当月は前月比+48.17%と前月（同▲22.31%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの動きが確認されている。他方、バイオ・医薬品を除いたベースでは前月比▲16.39%と前月（同+6.34%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少に転じるなど頭打ちの動きを強めている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産に大きく下押し圧力が掛かっているほか、重化学工業関連、精密機械関連、縫製品関連など幅広い分野で生産が下振れしており、世界経済を巡る不透明感が高まっていることが生産活動の重石になっているとみられる。

図4 SG インフレ率の推移

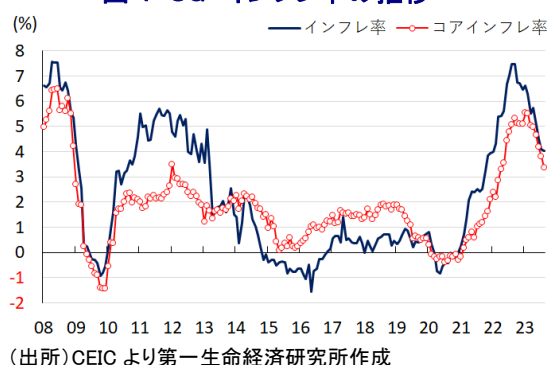
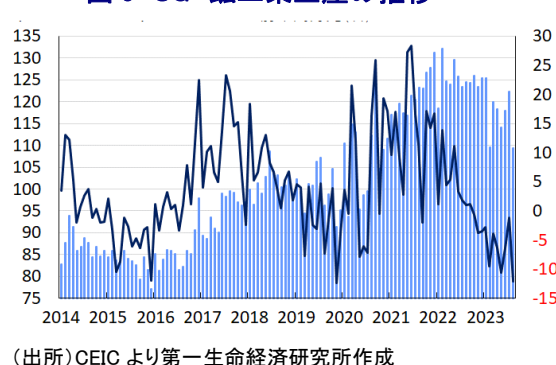


図5 SG 鉱工業生産の推移

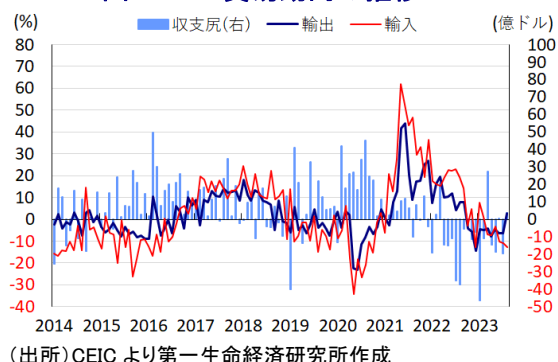


[タイ]～輸出に予想外の底打ちの動きが出る一方、輸入については幅広く下押し圧力が掛かる展開が続く～

26日に発表された8月の輸出額は前値同月比+2.6%となり、前月（同▲6.2%）から11ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど頭打ちの動きが続いた流れに変化の兆しが出ている。製造業関連の輸出に底打ちの動きが出ていることに加え、穀物をはじめとする農産品の国際価格が底入れの動きを強めていることも輸出額を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比▲12.8%と6ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移している上、前月（同▲11.0%）からマイナス幅も拡大している。前月比も3ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出とは対照的な動きをみせている。金の輸入額が拡大する動きがみられる一方、原油価格の底入れの動きにも拘らず原油関連の輸入は下振れしているほか、資本財や中間財、消費財関連の輸入も力強さを欠くなど全般的に輸入が

下振れする展開が続いている。結果、貿易収支は+3.60 億ドルと前月（▲19.78 億ドル）から2ヶ月ぶりの黒字に転じている。

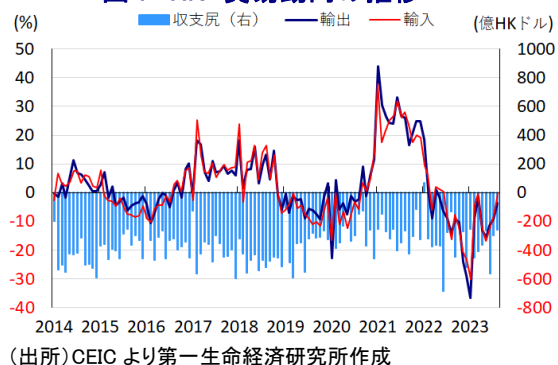
図6 TH 貿易動向の推移



[香港]～中国本土との貿易の動きが活発化していることを反映して、輸出入双方に底打ち感が出ている～

26日に発表された8月の輸出額は前年同月比▲3.7%と16ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲9.1%）からマイナス幅は縮小している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど頭打ちの動きが続いた流れに変化の兆しが出ている。国・地域別では、米国や欧州、日本など先進国向けは軒並み下押し圧力が掛かる展開が続いている一方、最大の輸出相手である中国本土向けの堅調さに加え、アジア新興国向けの底堅さが輸出全体を下支えしている。財別でも、商品市況の底入れの動きを反映して資源関連の輸出額が押し上げられているほか、機械製品関連の輸出の堅調さも輸出全体を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比▲0.3%と14ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲7.9%）からマイナス幅は縮小している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出同様に底打ちの兆候がうかがえる。輸入も輸出同様に中国本土から底打ちしていることが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は▲255.92 億HKドルと前月（▲299.88 億HKドル）から赤字幅が縮小している。

図7 HK 貿易動向の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。